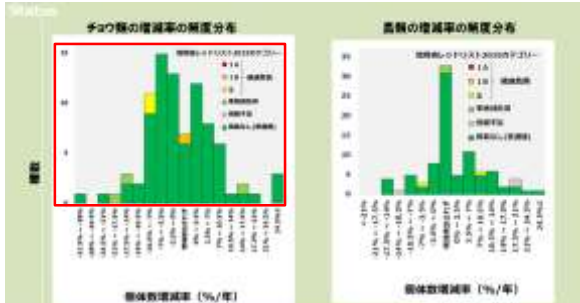
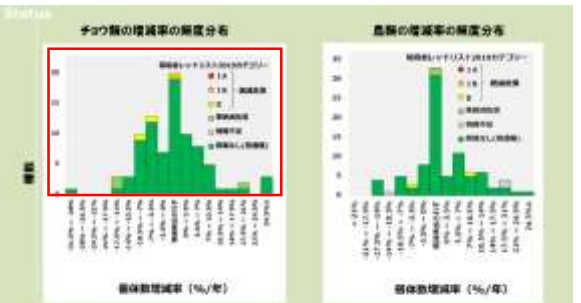
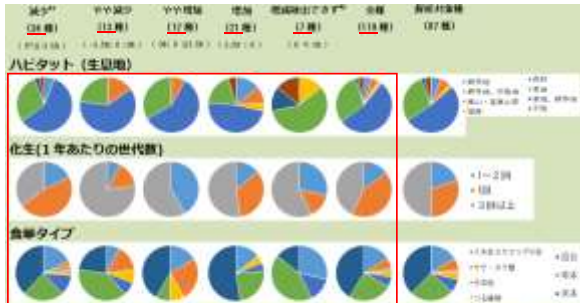
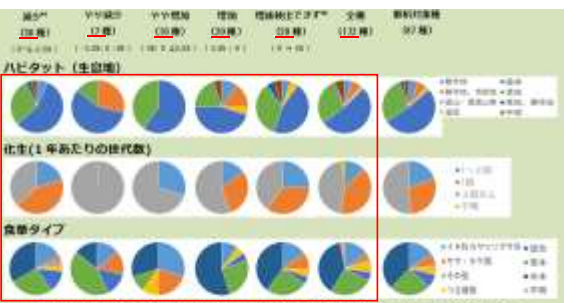


モニタリングサイト 1000 里地調査 2005-2017 年度とりまとめ報告書 正誤表

ページ	段落、図表番号	誤	正
ii	見出し	身近なチョウ類の4割が急激に減少	身近なチョウ類の <u>1/3</u> が急激に減少
ii	ダイジェスト上段	調査でのサイトの傾向に限ってみると、調査したチョウ類の半数以上が減少傾向にあり、約4割の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆されました。	本調査でのサイトの傾向に限ってみると、調査したチョウ類の半数以上が減少傾向にあり、約 <u>1/3</u> の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆されました。
vi	本文 3 段落目	過去 10 年間の個体数変化率に着目すると、チョウ類の半数以上の種は減少傾向にあり、本調査のサイトにおける傾向に限ってみると約4割の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆される一方で、これらの種のうち最新の環境省レッドリスト 2019 に掲載されている種はごく一部で、普通種が大多数を占めていた(ジャノメチョウ、キタテハ等)。	過去 10 年間の個体数変化率に着目すると、チョウ類の半数以上の種は減少傾向にあり、本調査のサイトにおける傾向に限ってみると約 <u>1/3</u> の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆される一方で、これらの種のうち最新の環境省レッドリスト 2019 に掲載されている種はごく一部で、普通種が大多数を占めていた(ジャノメチョウ、キタテハ等)。
vi	本文 5 段落目	各調査サイトでは、モニ 1000 里地調査のデータを活用した保全活動や普及活動が活発に行われており、この活動事例数は年々増加していることが明らかとなった。	各調査サイトでは、 <u>モニタリングサイト 1000 里地調査</u> のデータを活用した保全活動や普及活動が活発に行われており、この活動事例数は年々増加していることが明らかとなった。
viii	本文 3 段落目	If we only focus on the result of the survey, butterfly population growth rates indicated a decreasing trend in more than half of all species, with about <u>40%</u> of species decreasing at a sufficiently rapid rate to be classified as threatened speices according to the Japan ministry of the Environment Red List criteria.	If we only focus on the result of the survey, butterfly population growth rates indicated a decreasing trend in more than half of all species, with about <u>one third</u> of species decreasing at a sufficiently rapid rate to be classified as threatened speices according to the Japan ministry of the Environment Red List criteria.
10	本文1段落目	内訳は植物 3,480 種、鳥類 241 種、チョウ類 172 種、哺乳類 <u>19</u> 種(ただしネズミ類・コウモリ類を除く)と、指標種調査において記録されている6種(カヤネズミ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、エゾアカガエル)である。	内訳は植物 3,480 種、鳥類 241 種、チョウ類 172 種、哺乳類 <u>25</u> 種(ただしネズミ類・コウモリ類はそれぞれ1種とした)と、指標種調査において記録されている6種(カヤネズミ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、エゾアカガエル)である。
10	表 4-1 説明文	レッドリスト掲載種の()内の数値%は、日本のレッドリスト(環境省 2019)の	レッドリスト掲載種の()内の数値%は、日本のレッドリスト(環境省 2019)の

ページ	段落、図表番号	誤	正
		各カテゴリーの総種数に占める割合を表している	各カテゴリーの総種数に占める割合を表している。 <u>データ提出のあった調査サイト数(植物=128、鳥類=111、チョウ類=53)であり、調査時間外や設定した調査区画(同一サイト内)以外の記録も含む。</u>
10	表 4-1 脚注	*1:環境省レッドリスト 2019 掲載種数表 (http://www.env.go.jp/press/files/jp/111318.pdf) *2: 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第 7 版 pp438 *3: 矢田 修(2010) 日本のチョウ類の多様性の成り立ちと恵み. 昆虫と自然 45(11)p5 より。 <u>データ提出のあった調査サイト数(植物=128、鳥類=111、チョウ類=53)であり、調査時間外や設定した調査区画(同一サイト内)以外の記録も含む。</u>	*1:環境省レッドリスト 2019 掲載種数表 (http://www.env.go.jp/press/files/jp/111318.pdf) *2: 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第 7 版 pp438 *3: 矢田 修(2010) 日本のチョウ類の多様性の成り立ちと恵み. 昆虫と自然 45(11)p5 より。 (削除)
13	本文 2 段落目	本調査で記録されたチョウ類 <u>119</u> 種のうち、出現頻度が低い種を除いた 87 種(全記録種数の <u>73%</u> ;出現回数(サイト×年)30 回以上でかつ、個体数 1 以上の記録が 15 回以上ある種)の個体数の経年変化に着目すると、87 種のうち 47 種(55%)が減少傾向にあり、最も減少率が大きいミヤマカラスアゲハでは平均して1年あたり <u>31.4%</u> 減少していた。	本調査で記録されたチョウ類 <u>172</u> 種のうち、出現頻度が低い種を除いた 87 種(全記録種数の <u>51%</u> ;出現回数(サイト×年)30 回以上でかつ、個体数 1 以上の記録が 15 回以上ある種)の個体数の経年変化に着目すると、87 種のうち 47 種(55%)が減少傾向にあり、最も減少率が大きいミヤマカラスアゲハでは平均して1年あたり <u>30.8%</u> 減少していた。
13	本文 2 段落目	今回著しい減少(※)がみられた種は、 <u>34</u> 種あり、里山を主な生息地とする種が多く、今後も注視していく必要がある(図 4-7)。	今回著しい減少(※)がみられた種は、 <u>30</u> 種あり、里山を主な生息地とする種が多く、今後も注視していく必要がある(図 4-7)。
13	本文 3 段落目	本調査で記録された鳥類 <u>175</u> 種のうち、出現頻度が低い種を除いた 91 種(全記録種数の <u>52%</u>)の個体数の経年変化に着目すると、91 種のうち 21 種(23%)が減少傾向にあった(図 4-7)。	本調査で記録された鳥類 <u>241</u> 種のうち、出現頻度が低い種を除いた 91 種(全記録種数の <u>38%</u>)の個体数の経年変化に着目すると、91 種のうち 21 種(23%)が減少傾向にあった(図 4-7)。
13	脚注	(※)今回の結果によると、10 年間で 30%以上(1 年あたり 3.5%以上)と急速に個体数が減少している種は、チョウ類では評価対象種の約 <u>40%</u> にあたる <u>34</u> 種、鳥類は評価対象種の 14%にあたる 13 種であった。	(※)今回の結果によると、10 年間で 30%以上(1 年あたり 3.5%以上)と急速に個体数が減少している種は、チョウ類では評価対象種の約 <u>34%</u> にあたる <u>30</u> 種、鳥類は評価対象種の 14%にあたる 13 種であった。
15	図 4-7	別紙 図 4-7 出現頻度の低い種を除いたチョウ類 87 種・鳥類 91 種の各種の1年あたりの個体数増減率の頻度分布【誤】	同【正】

ページ	段落、図表番号	誤	正
		 <p>図 4-7：出現頻度の高い種を除いたチョウ類 7 種・鳥類 91 種の各種の 1 年あたりの個体数増減率の頻度分布</p> <p>解析対象種は出現回数（サイト年）30 回以上でかつ、個体数 1 以上の記録が 15 回以上ある種とし、本調査で記録した種のうちチョウ類では 21 種、鳥類では 57 種、チョウ類・鳥類では 78 種の種を解析した。各種の個体数増減率は、全国で普遍的な増減傾向がみられるかを統計的に検証して推定値を求め、推定が検出されなかった種は「検出されず」と表記し集計した。詳細な解析方法については巻末の参考資料を参照のこと。</p>	 <p>図 4-7：出現頻度の高い種を除いたチョウ類 7 種・鳥類 91 種の各種の 1 年あたりの個体数増減率の頻度分布</p> <p>解析対象種は出現回数（サイト年）30 回以上でかつ、個体数 1 以上の記録が 15 回以上ある種とし、本調査で記録した種のうちチョウ類では 21 種、鳥類では 57 種、チョウ類・鳥類では 78 種の種を解析した。各種の個体数増減率は、全国で普遍的な増減傾向がみられるかを統計的に検証して推定値を求め、推定が検出されなかった種は「検出されず」と表記し集計した。詳細な解析方法については巻末の参考資料を参照のこと。</p>
16	図 4-8	<p>別紙 図 4-8 出現頻度の高いチョウ類 75 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、化生、食草タイプ）比較【誤】</p>  <p>図 4-8：出現頻度の高いチョウ類 75 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、化生、食草タイプ）比較。</p> <p>※ 1 種年：総調査回（サイト年）以上と相当する種年（10 年調査年 30%以上、15 年調査年 3.5%以上）が記録された種</p> <p>※ 2 種：1 年あたりの個体数増減率</p> <p>※ 3 検出検出できず：出現回数が検出できなかった種（図 4-8 に記載した統計セルを除いて解析し、1 種）の個数が 0% 未満であった種を表す</p>	<p>図 4-8 出現頻度の高いチョウ類 87 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、化生、食草タイプ）比較【正】</p>  <p>図 4-8：出現頻度の高いチョウ類 87 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、化生、食草タイプ）比較。</p> <p>※ 1 種年：総調査回（サイト年）以上と相当する種年（10 年調査年 30%以上、15 年調査年 3.5%以上）が記録された種</p> <p>※ 2 種：1 年あたりの個体数増減率</p> <p>※ 3 検出検出できず：出現回数が検出できなかった種（図 4-8 に記載した統計セルを除いて解析し、1 種）の個数が 0% 未満であった種を表す</p>
16	図 4-9	<p>別紙 図 4-9 出現頻度の高い鳥類 73 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、渡り性、分布範囲、食性）比較【誤】</p>	<p>図 4-9 出現頻度の高い鳥類 91 種の個体数増減率別の種特性（ハビタット、渡り性、分布範囲、食性）比較【正】</p>

ページ	段落、図表番号	誤	正
		<p>図 4-9 鳥類調査の若い個体 11 種の個体数変動率の特性 (ハビタット、濃り性、分布範囲、食性) 比較</p> <p>※ 1.減少：絶滅危惧種 (VU) 以上の割合が減少率 (20年減少率 50%以上、10年減少率 5%以上) が記録された種 ※ 2.増：1年あたり1種の個体数増加 ※ 3.変動なし：増減の割合が減少率でなかった種 (図 4-4) に記した割合を平均して算出し、「増」の個体数が増えたと判断された種を示す。</p>	<p>図 4-9 鳥類調査の若い個体 11 種の個体数変動率の特性 (ハビタット、濃り性、分布範囲、食性) 比較</p> <p>※ 1.減少：絶滅危惧種 (VU) 以上の割合が減少率 (20年減少率 50%以上、10年減少率 5%以上) が記録された種 ※ 2.増：1年あたり1種の個体数増加 ※ 3.変動なし：増減の割合が減少率でなかった種 (図 4-4) に記した割合を平均して算出し、「増」の個体数が増えたと判断された種を示す。</p>
55	本文 1 段落目	過去 10 年間の個体数変化率に着目すると、チョウ類の半数以上の種は減少傾向にあり、本調査のサイトにおける傾向に限ってみると約4割の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆され、これらの種の多くは里山を主な生息地としていた。	過去 10 年間の個体数変化率に着目すると、チョウ類の半数以上の種は減少傾向にあり、本調査のサイトにおける傾向に限ってみると約 <u>1/3</u> の種は絶滅危惧種の判定基準にある減少率に相当するほど急速に減少している可能性が示唆され、これらの種の多くは里山を主な生息地としていた。
55	本文 5 段落目	各調査サイトでは、モニ 1000 里地調査のデータを活用した保全活動や普及活動が活発に行われており、この活動事例数は年々増加していることが明らかとなった。	各調査サイトでは、 <u>モニタリングサイト 1000</u> 里地調査のデータを活用した保全活動や普及活動が活発に行われており、この活動事例数は年々増加していることが明らかとなった。
115	付表 2	別紙 付表 2. チョウ類の種ごとの個体数変化率・出現地点の割合の経年変化・出現頻度【誤】	同【正】 (個体数変化率の数値、出現頻度の数値、種名の表記の順序などの修正および、右端列の削除をした)
116	付表 2	別紙 付表 2. チョウ類の種ごとの個体数変化率・出現地点の割合の経年変化・出現頻度(その2)【誤】	同【正】 (個体数変化率の数値、出現頻度の数値、種名の表記の順序などの修正および、右端列の削除をした)

以上